



生活・学習支援ボランティアに取り組んでー 高崎健康福祉大学人間発達学部子ども教育学科学生の声

去る2月19日（日）、高崎健康福祉大学において、人間発達学部子ども教育学科主催の公開講座が行われました。テーマは『子どもの貧困に立ち向かう！—その実態と最前線の取り組みから支援を考える』。定員100名を超える多くの幅広い方々が参加して、意欲的で盛りだくさんの報告と討論がなされました。

講座の内容は、第1部シンポジウム「実践者がみた子どもの貧困」、第2部「生活・学習支援事業のボランティア活動報告」、第3部パネルディスカッション「子どもの貧困の実態把握と支援」でしたが、ここでは、第2部の県内の生活・学習支援活動に参加している学生によるトークセッションの中から学生の声を紹介します。

学生の支援活動先は、NPO法人ひこばえ無料学習会（玉村町、前橋市）、NPO法人わくわく広場（大泉町）、社会福祉法人みどの福祉会（新町）。ほぼ毎週1回の学習支援を続けています。

どの学生も誠実にひたむきに子どもの現実に向き合い寄り添っている姿が伝わってきて、将来教師をめざす彼らにとってはかけがえのない体験を刻んでいることと思われます。



<なぜ、活動に参加したのか>

殆どの学生の動機は、次の点に要約されます。

☆大学の先生や友達からの紹介で

☆貧困問題や子どもに対して関心があり、ボランティアをやってみたいと思って

☆生活保護や母子家庭の実態について理解し学びたいと思ったので

<感じたこと・学んだこと>

報告の中から、ほんの一部を紹介します。

★子ども達の夢の原点になりたい

最初に子ども達の家庭状況を知ったり、勉強のレベルを知ったりした時には、正直、衝撃を受け

ました。自分が今までどれだけ恵まれた環境で生活できていたのかを実感しましたし、どうして親は働かないのだろうと疑問も抱きました。それと同時に、この子達にとって私たち学生ができることはなんだろうと考えると、とても難しい課題があるのではないかと感じていました。

しかし、子ども達は本当に素直でかわいくて、かかわればかかわるほど、どうにか力になりたいと思い、小さいことですが意識して取り組むようになりました。

今は、子ども達にとっての夢を抱く原点になりたいと思っています。「あの先生みたいに大学に行きたい」「いつか自分も教師になってみたい」という具体的な将来の夢だけでなく、「あの人みたいに面白い話ができるようになりたい」「優しくて笑顔

の素敵な人になりたい」と、身近なお兄さんお姉さんとして子ども達のイメージする大人になれたら嬉しいです。そのためにも、憧れられるような言動で、初心を忘れず取り組みたいと思います。

★前向きな子どもたち

私は貧困という言葉を聴くとあまりいいイメージを持ちませんでした。貧しいということはあまりいい環境ではなく、何かかわりたくないという感情を持っていました。しかし、今回の学習支援ボランティアを行なうという機会に恵まれたおかげで、貧困にある子どもたちもやはりほかの子どもたちとは根本では何も変わっていないということがよくわかりました。むしろ、貧困状態にあるにもかかわらず明るく、友だちと楽しそうに会話や勉強をしているのを見て、普通の子どもたちより前向きに日々を送っているのではないかと思います。家庭環境が複雑な子どもが多いので、あまり親のことなどは話さないように心がけて活動をしています。学習に意欲的に参加してくれるのでこちらでも楽しく参加させていただいています。

★学校以外の居場所づくり

児童と実際に接してみて、親が片親であったり、貧困であっても、いたって普通の児童と変わらないということが一番感じた。携帯ゲーム機を持っていたり、携帯電話を持っていたり、最初は驚いたが、今の児童の間では、そういうものを持っているということが当たり前なのかと思った。子どもの世界に大人が関わることはなかなかできないので、「貧困家庭なのだから、携帯ゲーム機などは買ってあげられないし、それは仕方のないことだ」という大人の意見を押し付けることはしてはいけなと感じた。

私たちは、児童・先生という関係ではなく、あくまで勉強を教えてくれるお姉さんという立場で接するということが大切なのではないかと学んだ。児童には、学校での子どもの世界があり、それを理解して味方になってくれる大人というものが児童にとったら少しでも力になるのではないかと学んだ。

私たちに貧困問題の根本を解決することは難しいが、それによって生じる問題の解決のお手伝いをすることはできる。児童の学習支援は学生でもできる支援である。少しでも学習に集中して取り組んでもらえるよう、環境を調整すること。時には児童の興味あるものや気になるものを先に行うことも大切である。児童にとって、学校以外での自分の居場所作りをしてあげること。同じ世代の友達だけでなく、学生や大人と関わることや、親以外でも相談できる相手がいることが大切だと感じた。

★スモールステップで

他国籍の子どもたちに勉強を教えた経験がなく、最初は勉強に対してやる気のない子ども達をやる気にさせるにはどのようにしたら良いのかわからなかったです。やる気のない子ども達には無理に勉強をさせずに、スモールステップでちょつとずつ勉強をする習慣がつくようにしようと思っていました。そのおかげで今ではこちらから勉強するよと言わなくても次第にスタディースポットに来たら勉強を始めようという習慣になってきているので良かったです。

★理解できた時の楽しさや意欲

(他国籍の子ども達に教えてみて)初めて子ども達に会う時は、どんな子どもが来るのだろうと少し不安でした。しかし、会ってみるととても元気な中学生で、友人関係、恋愛、学校でのことなど、いろんなことを話してきたり、家庭に問題がない中学生と何も変わらないと感じました。学習面では、勉強をしたいという気持ちをみな持っていて、たしかに学力は高くないかもしれないが、勉強が理解できた時の楽しさや意欲などがすごくあると感じた。

何人かの子どもが言っていたのは、日本語がわからないから授業もわからない。わからないのにどんどん先に進んでしまう、と言っていて、学校の先生方にもボランティア先で子ども達の学習している姿を見てほしいと思いました。

(文責：瀧口典子)